

お母さんのお乳

小川未明

青空文庫

赤あかちゃんは、お母かあさんのお乳ちちにすがりついて、うまそうに、のんでいました。

それをさもうらやましそうにして、五つになったお兄にいさんと、七つになったお姉ねえさんがながめていました。

兄にいさんは、ついに我慢がまんがしきれなくなつたとみえて、お母かあさんのお乳ちちに、小ちいさな手てをかけようとしました。すると、赤あかちゃんは、顔かおを真まつ赤かにして、かわいらしい頭あたまをふって、さわつてはいけないといつて怒おこりました。

「よし、よし、お兄にいさん、おっぱいにさわつてはいけませんよ。これは、赤あかちゃんのお乳ちちですから。」と、お母かあさんは、笑わらいなが

らいわれました。

お姉さんねえも、またお兄さんにいも、笑わらいましたが、お兄さんにいは、なんとなくさびしそうでした。そして、お母さんかあに向むかって、

「お母さんかあ、赤ちゃんあかは、いじわるですねえ。」といいました。

「坊ぼうやも、赤ちゃんあかの時分じぶんは、やはりおなじだったのだよ。」

「お母さんかあ、僕ぼくもこんないじわるだったの？」

「赤ちゃんあかが生まうまれるまでは、坊ぼうやが、毎まい日にちこうして、母かあさん

のおっぱいにぶらさがっていたの。そしてお姉ちゃんねえが手てを出だそ

うものなら、やはり、こうして顔かおを真まっ赤かにして怒おこったの……。

このお乳ちちのまわりには、みんなの唇くちびるの跡あとが、数かずかぎりなくついて

いるのです。」と、お母さんかあはいわれました。

このお話を聞くと、お姉さんも、そうであつたかというように、
かわいらしい目を輝かしました。

しかし、お姉さんも、お兄さんも、そんなにして毎日飲んだ、
お乳の味を忘れてしまつて、ただお乳を見ると恋しいばかり。赤
ちやんだだけが、お乳の味を知っていました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 5」 講談社

1977（昭和52）年3月10日第1刷発行

※表題は底本では、「お母《かあ》さんのお乳《ちち》」となっています。

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：雪森

2013年5月4日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

お母さんのお乳

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>